

車椅子バスケットボール連盟

審判講習会

12月7日(土)・8日(日) 参加者19名

講師 日本車椅子連盟審判長 国際審判員 杉山兼芳

県内参加者 湊・横矢・井邊・湯浅・海端 (5名)

近畿ブロック参加者 兵庫9名、大阪4名、京都1名

講習会の概要報告

12月7日(土) 17:00～(シティーinn和歌山)

開講式 江川副理事長からあいさつ



講義 「基礎的知識(ルールの理解)と車椅子バスケットボールの技術の理解」

内容 1. 車椅子連盟の組織について

- ・連盟発足から約50年 全国10地域で活動
- ・審判登録数 日本公認150名 ブロック公認130名(内女性30名)
- ・国際公認12名 A O Z(アジア・オセアニア・ゾーン)10名
- ・近畿審判員登録数 40名
- ・1月～12月の年度の切り替えが法人化されることにより、4月～3月に変わっていくかもしれない。

2. 判定について

- ・ルールの正しい運用
車椅子に乗っていない(経験がない)から弱い立場になることがある。
(解消するために、車椅子に乗って経験することが大切である)
- ・プレゲームカンファレンスをしっかりとしておくことが大切である。
(場面を想定して、いつでも対応できるように話をしておく)
- ・やたらと笛を吹いてプレイを止めない。
(ファウル・ヴァイオレーション以外で)
ボクシングインを忘れずに(ランニングバスケットと同様)

3. ルールについて

- ・車椅子の車検の基準
- ・プレイヤーの転倒についてのタイミング
(ペイントエリア・危険と思ったらすぐに止める)
- ・3秒はオールコートでも対応
(ランニングバスケットとは違う)
- ・クロスコートヴァイオレーション
ラインから出たときはヴァイオレーション、2回目からはテクニカルファウル(必ず1回目があったときはベンチに伝える)
- ・リフティングファウルとリフティングヴァイオレーション
パスやシュートした場合はファウル
何もしないでもどってきた場合はノーコール
- ・キルティング
どちらかの車輪が床についている状態

12月8日(土) 9:00～(河南体育館)

開講式 小村会長からあいさつ

実技 試合の中での実技講習

内容 和歌山県バスケットボール協会車椅子連盟審判員に対して実技講習

横矢：来年度日本公認審査の対象として可能か？

湯浅：来年度近畿ブロック公認の対象として可能か？

海端：同上

井邊：欠席(公認コーチ申請講習のため)



来年度、5月16日(金)～18日(日)におこなわれる日本選手権

近畿推薦 湊 後催県 横矢 が参加予定

横矢については日本公認審査

湯浅、海端、井邊についてはブロック公認審査

きのくにわかやま大会では15名～16名の審判員が必要である。

(県内5名、近畿ブロック5名、後催県1名、本部5名)